

# たかこ村.com 新聞

仙台市議会議員 村岡貴子



vol.1



## ご挨拶

時下皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

皆様のお力で仙台市政にて働かせていただきまして数ヶ月が過ぎました。目まぐるしく動く時間に翻弄されつつ、早くお役に立ちたいと猛勉強中です。また、市政の中に入りとても刺激を受けております。公約でお話させて頂いたことをひとつひとつ実現するためにこつこつと取り組みをさせて頂いております。

仙台市のマスタープランを計画する時期とも重なり、応援して頂いた方々が少しでも暮らしやすくなるようにしっかりと発言・提言して参ります。常任委員会では健康福祉委員として子供たちの取り巻く環境の整備のため、こども子育てすこやかプランの策定に向けて、また障がいを持つ方々、高齢の方々への支援策に取り組んでおります。また特別委員会では防災・減災推進調査特別委員として防災・減災への街づくりの為に取り組みます。下水道・雨水対策などの見直しをより現実的に国と連携をしながら被災する方がより少なくなるような街づくりが出来るように提言をして参ります。まだまだ未熟な一年生ですが、これまでの人生経験を活かし、皆様のお話に耳を傾けて初心を忘れずに働いてまいります。

## 主な議会活動

### 〈定例会での質問〉

- ◎地域交通について
- ◎子供を見守る学校の体制について
- ◎女性消防団員について

## 地域交通について質問しました

- 地域交通に関する市民への周知方法について
- 地域からの要望があがった場合の本市のフォロー体制について
- 本格運行までの期間・収支率について

## 地域交通について

昨今、免許証返納の気運が高まっており返納後の足の確保のために、国では平成23年より地域公共交通確保維持事業が始まり全国的に乗合タクシーやコミュニティバスなどの運行が増え、宮城県内でもタクシーの割引制度などを導入し足の確保対策がなされております。本市においても坪沼の乗合タクシーに始まり、燕沢ののりあいつばめ号においては本日より3回目の試験運行が開始されたところです。先日このつばめ号に実際に乗車をして参りました。三回目が決まって良かったと利用者の方々が言っておられ、地域の足として頼りにされていると実感を行いました。また、燕沢地区交通検討会会長も絶対に無くすわけにはいかないと強い意志を持って取り組みをされております。ここまでくるのに10年かかったそうです。度々新聞報道もされており、ほかの地域からも注目をされていることから仙台市としての初めての支援事業による地域交通のモデルケースとして今後も打ち切ることなく続けていくべきだと考えております。さらに、宮城県内にもドアTOドアのデマンド交通を実施している自治体もいくつかあります。大河原町では、一回300円の運賃で自治体の補助が8割にもなりますがそのうち7割が交付税措置されるということでした。また、浜松市では12か所の地域ですでに地域バスの運行をしており、ICTを使っての実証実験運行も始まり、利用者増に繋がっています。浜松市ではPDCAサイクルにより基準を設け2年間の試行運転の中路線の維持・改善しているそうです。さて、本市での運行実施までの行程では、まず最初に地域の方から手が上がり、5名以上の委員会が立ち上がる場所から始まると伺っております。手を上げるのを待つのではなく、まずは手を上げやすくする取り組みが重要と思いますが、現在地域交通の立ち上げに向けて市民に対しどのような周知をされているのかお伺いいたします。また、町内会でも担い手不足の問題もある中、5人以上の組織を立ち上げそして組織を維持していくとなるとその労力は大きいものと思います。今現在委員会が立ち上がっているまたは、立ち上がりそうな地域や問い合わせなどがあつた地域への本市の支援体制はどの様になっているのかお伺いいたします。また、政令指定都市の浜松市や宮城県内では大河原町などでは15%~20%の収支率で運行しております。本市としてもPDCAサイクルとOODAループを活用しながら特別交付税措置もされていることから、30%などの高い基準のクリアを設けるのではなく出来るだけ運行維持に努め、市内各所で広く運行出来るようにし、外出の機会が増えれば健康寿命も延び医療費削減にもつながります。福祉目的での

幅広い視野で市民の足の確保に取り組むべきだと思いますが本格運行までの期間や収支率について今後のお考えをお伺いいたします。



※9月末運行のつばめ号です。

### 【答弁】

#### 【市長】 支援制度の考え方について

地域交通の持続可能な運営に向けての支援のあり方についてお尋ねがございました。少子高齢化の進展、さらには本格的な人口減少社会の到来を見据えて、市民生活を支える移動手段として、鉄道や路線バスに加えて、地域交通が大変重要な役割を担うものと認識をしております。こうした考えのもと、昨年度から地域交通スタート支援事業を開始いたしまして、燕沢地区において試験運行を行っているところでございます。本市の支援制度は、段階的に試験運行、それから実証運行を行って、ルートや停留所、運行便数、運賃など、地域のニーズに沿った適切なサービスレベルの設定や運行計画の見直しを重ねながら、持続可能な本格運行に繋げていくものでございます。本格運行に向けたプロセスや補助内容につきましては、現在、実施中の試験運行の結果を検証して、他都市の事例なども参考にしつつ、他の地域でも事業展開が可能な制度となるように、本格運行までの期間や目標収支率のあり方について検討してまいります。今後とも、それぞれの地域の実情に応じた持続可能な移動手段の確保に努めて、誰もが暮らしやすいまちづくりを実現できるよう、取り組んでまいりたいと存じます。

#### 【都市整備局長】 地域交通における支援制度の周知や地域への支援体制について

地域交通における支援制度の周知や地域への支援体制についてでございます。地域交通の支援事業開始にあたりましては、市政だより等での広報を行ったほか、市内の全単位町内会長宛てにリーフレットを送付し、依頼に応じて個別説明を実施してきたところでございます。今年度からはさらに、各町内会長に配布される町内会活動の手引きに、支援制度の説明を新たに掲載させていただき、周知に努めております。これまで、地域交通の要望や相談のあった地域において、検討組織の立ち上げやその後の進め方について助言を行うとともに、立ち上がった検討組織に対しては、専門家を派遣しつつ、話し合いにも参加し、地域主体の取り組みを支援してまいりました。今後とも、他の地域への展開に向けて、支援制度の広報や周知に努めるとともに、地域からの相談に丁寧に対応し、それぞれの検討段階に応じた適切な支援が行えるよう、取り組んでまいりたいと存じます。

## 子供を見守る学校の体制について質問しました

- 小学校スクールカウンセラー常駐について
- さわやか相談員の拡充について
- 地域への空き教室開放について

### 子どもを見守る学校の体制について

子どもを見守る学校の体制についてお伺いいたします。

私の祖父母は教師をしておりました。その当時の教育現場は教え子がどのような環境で暮らし、家族構成がどうなのか、家族同士や周りの人間関係はどうなっているかなどをすべて把握して児童や生徒と関わっていたと常々聞かされておりました。しかし、現在の子どもの取り巻く環境はその当時とは大きく様々な要因で変化しています。携帯電話の普及によりSNS内での問題などよりスピーディな対応が不可欠ではないでしょうか。また、子どもたちの問題ははじめの問題だけではなく、貧困問題、虐待、不登校など複雑にからみあっている状況です。現在、常時学校にスクールカウンセラーのいる国立の学校があります。そのスクールカウンセラーの先生の経験によると、週1や週2の体制ですと大きな問題が起きる前後の対策に時間がかかり過ぎるとのことです。それに比べ常時学校にいる体制ですと子どもたちと学校生活の中で朝から時間の共有ができ、より子どもたちの状況把握が出来るようになった。また常時いることによりスクールカウンセラーの先生の顔が見えるようになり、自分から相談に行くことのハードルが下がり、相談の件数も増えているということです。そしてまた、空いている時間には年齢に合った予防教育を学年単位ではなくもっと身近に感じられるクラス単位で行い、ともに悩みの共有をはかり、一人で悩まずにいつでも相談できる人がそばにいる体制があるということ子どもたちや保護者の方々にしっかりと理解してもらう事が大事だとおっしゃっておりました。さて、本市でもスクールカウンセラーやさわやか相談員などを配置し子どもたちを見守る体制をしておりますが現在の配置体制・今後予定している体制についてお尋ねいたします。なり手不足や予算の関係上でのスクールカウンセラー常時在中が難しいといことですが、さわやか相談員を増加させることや技士や図書・給食パートの方々にも協力を仰ぎ子供を見守り子供たちにとって身近に感じられる大人を増やし、予算確保を国に求めるなど今現在の状況の中で子供たちの為に最大限出来る取組を求めますが、どのようにお考えかお聞かせください。また、出入口を分けるなど防犯体制もしながら空き教室を地域の方々に積極的に開放し、地域の人も集え、子供たちと接する機会が増えることにより、地域と一丸となって子どもたちを見守る体制を推し進めるべきだと思います。学校単位ではなく市として取り組むことにより変わらない体制づくりを求めますがご所見をお伺いいたします。

## 【答弁】

### [市長] 子どもたちを地域で見守る体制について

子どもたちを地域で見守る体制についてでございます。

子どもたちが地域の多くの大人と関わることにより、安心して学校や地域での生活を送ることができるようになるとともに、自己肯定感や自己有用感を育むことにもつながるものと、そう認識をしております。

教育委員会では、「地域とともに歩む学校」を教育活動の基盤に据えて、学校・家庭・地域が一体となって総ぐるみで子どもたちを育む体制づくりを推進しております。また、学校という身近な場所を、地域の方の学びや活動の場として提供する取組みを行っている学校もございます。

今後もそれぞれの学校において、地域の実情なども踏まえながら、子どもたちを見守る体制を構築するとともに、豊かな教育環境を創出することができるよう、教育委員会とともに進めてまいりたいと存じます。

### [教育長] スクールカウンセラーとさわやか相談員の配置体制等について

スクールカウンセラーとさわやか相談員の配置体制等についてお答えいたします。

スクールカウンセラーにつきましては、現在、全ての中学校、中等教育学校、高校、特別支援学校及び小学校62校に週1日、小学校58校に隔週の配置を行っております。

また、児童生徒の身近な話し相手となるさわやか相談員については、小学校47校、中学校14校に配置しているところです。

児童生徒を取り巻く状況や課題が多様化・複雑化する中、子どもたちがいつでも気軽に相談できる体制は重要でございます。引き続きスクールカウンセラー、さわやか相談員の増員について検討してまいりたいと存じます。

学校には、教員以外にも様々な職種の職員がおり、それぞれの立場で子どもたちに関わっております。普段から子どもたちの様子を気にかけて、小さな変化に気付いた場合には、教員に伝え、校内での情報共有につなげていくなど、校長のリーダーシップのもと、学校全体で子どもたちを見守る体制を整えてまいりたいと考えております。



## 令和元年第3回定例会 一般質問

### 女性消防団員について質問しました

- 女性消防団員の役割について
- 女性消防団員の環境整備について
- 女性消防団あるいは女性消防団員チームについて

### 女性消防団員について

次に、女性消防団員についてお尋ねいたします。

全国的に女性消防団員が増加傾向にあります。本市でもそのように聞いておりますし、私も現役の消防団員として活動しております。男性消防団員が多い中での女性消防団員の役割とはどのようにお考えなのかお聞かせください。また、学生消防団員が増えたことにより若い世代の女性団員も増えました。先輩議員の方々も質問をして頂いておりますが、現在は休団制度というものがなく、今後も活動を続けるにあたり、妊娠・出産・育児など環境の変化によっては一度退団している状況です。人によっては再度入団しておりますが、新入団員と同じ階級・扱いとなり不利益な状況となっております。せっかく地域の為にと入団しても志半ばでの退団を余儀なくされるという状況をなくし、長く地域の中で活動が出来る様にするべきだと考えます。また、富山県高岡市では訓練時の託児サポート制度を導入しておりますが、本市としても子連れで可能な訓練や女性団員向けの研修制度の導入を検討するなど環境整備をする時が来たのではないかと考えます。来期にはしっかりと規定を変更することを求めますが本市としてのお考えをお聞かせください。また、仙台市には女性消防団が存在しておりません。他の自治体をみますと、名取市や宇都宮市・新潟市等々全国的に存在している状況です。活動内容としては消防団員加入促進のための活動や地域の子供から大人まで防災・減災への取り組みの広報活動などを行っており、子供の頃からしっかりと学べる環境づくりをすることで有事の時には地域全体で助け合える自助共助の取り組みをしております。現在仙台市内では分団員でありながらボランティアとして防災減災の活動しておられる方々があり、ボランティア団体がゆえに課題もあり活動維持するのに日々努力をされております。本市でも女性団員の在り方の一つとして各分団の女性団員チームとしての広報活動を後押しするなど女性消防団員活動を考える時期に来ていると思います。現在SBLが連合町内会ごとに5名の配置ということになっておりますが、高齢化や活動内容に地域によっての差があるように見受けられます。実際SBLとして活動している方に聞きますと、他のSBL同士の交流などはないと言っております。それに比べ女性団員での活動ですと通年通して交流でき平均年齢も45.4歳と広報活動するには適していると考えます。また、本市のHPに記載されている消防団の活動内容には、災害時の警防活動、予防活動とあり、予防活動の中には自主防災組織の指導育成、防火指導・防火広報とあります。このことも踏まえお考えをお聞かせください。

## 【答弁】

### 【消防局長】女性消防団員の役割について

女性消防団員の役割についてでございます。本市の女性の団員数は、全国同様に近年増加傾向にあり、100名を超える方々がそれぞれの消防団において、活躍いただいているところでございます。



消防団の活動は、災害への対応や地域の消防訓練指導、更には防火広報など多岐にわたっておりますが、本市の7つの消防団におきましては、基本的に性別や年齢等で活動内容に違いは設けておらず、これまで、培ってきた技術や経験等に応じた役割を担っていただいているところでございます。

女性や学生といった様々な団員が共に活動し、消防団の活動全般に多様な視点を活かしていただくことで、地域の防災力の向上や消防団の活性化につながることを期待しているところでございます。

### 【消防局長】環境整備について

休団制度と女性の消防団員がより活動しやすい環境整備についてでございます。休団制度につきましては、転勤や出産、育児などの理由により、やむなく退団される団員もおりますことから、技術の伝承という点も含め、地域で長く活動を続けられるよう早期の導入に向けて検討を進めているところでございます。また、育児中をはじめ、女性の団員がより活動しやすい環境づくりやサポート体制又は研修のあり方につきましては、団員の意見やニーズを幅広く伺って参りたいと存じます。

### 【消防局長】活動のあり方について

広報活動をはじめとする女性団員の消防団活動のあり方についてでございます。現在、各消防団におきましては、防火に関する広報活動や団員募集活動を行っており、また、地域の防災訓練などでは、町内会や自主防災組織と連携しながら防災・減災に関する住民指導などを行っている消防団もございます。これらの活動は、女性の団員のみならず、男性の団員や学生の団員も同様にやりがいを感じながら積極的に参加しており、このような団員の多様性が、住民のニーズや対象者に応じた効果的な活動に繋がっているものと認識しております。女性団員の一層の活躍が期待される中、各消防団の取組み状況の共有や研修の実施などにより、様々な場面で女性の消防団員がより活躍できるよう、活動のあり方について検討して参りたいと存じます。

## 健康福祉委員会で視察をして参りました

11/11~13

### 【福岡県保健環境研究所】

S48年に現在地に発足。各種検査のほか様々な研究もしています。ドローンを活用しての環境分野の研究はとても興味深いものでした。アジア圏にも近いということもあり、大気汚染についてのシュミレーションで発生源の特定など生活に直結した研究、調査は是非仙台でも取り入れていくべきと考えます



### 【兵庫県立健康科学研究所】

H30年4月に発足。とても新しい施設です最新設備を整え、セキュリティに関しても充分の備えをしております。これまでに比べ調査にかかる時間も大分短縮され、より詳細のデータも取得できるとのこと。これから建て替える仙台市としてもとても参考になる施設でした

### 【広島障害者雇用支援センター】

障害のある人が職業生活での自立を図るために継続的な支援を得ながら職業準備訓練、職場見学実習等を経て、就職・職場定着に至るまでの相談支援等の職業リハビリテーションを一貫して行う施設です。地域の会社の協力もあり障害の状況に細かく合わせて対応されていて職員の方々も親しみをもってコミュニケーションを取られている様子に感動いたしました。仙台市の施設も更に活用出来るよう参考にしたいと思えます。



### 【姫路市による産後ケア事業について】

姫路市ではH28より宿泊・通所・訪問を実施しています。特に、宿泊では24時間単位での料金設定であり、訪問型があったりと仙台市にはない取り組みをされておりとても参考になりました。

## 決算特別委員会・常任委員会にて質問をさせていただきました。

今回の会報でご報告いたします下記要旨です

決算特別委員会

消防局

- 消防団強化緊急事業五ヶ年計画について
- 小松島出張所整備の考え方について
- 消防署所の整備について

教育局

- 平成30年度に行った35人以下学級の取組の概要と決算額について
- 本市における不登校児童生徒の現状及び今後の取組について
- スクールカウンセラーによる支援に関する費用とさわやか相談員配置による決算額と国からの補助金について

常任委員会

- 仙台市健やか子育てプラン2020について
- ひとり親家庭等安心生活プランについて

発行者 村岡たかこ 〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-7-16  
TEL.022-725-7870 FAX.022-725-0028  
<https://takakomura.com/>



End